

オリジナルの物語を作ろう

教科・場面

A1 生活

授業・実践のねらい

- ☆返答を期待する場面を多く持ち、生徒に期待していることを感じてもらう。
- ☆物語の場面を実際に演じてみることで、創造しやすくする。

対象の児童・生徒

- ・高等部 A1 グループ

教材・教具

- ・絵本・iPad・衣装

工夫したところ

- ・返答を期待していることを感じてもらうため、パディの先生と言葉でのやりとりにじっくり時間をとった。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

初めは、A1 で意見交換をしながら1つの作品（物語）を作る予定だったが、授業を進めていくと、生徒一人一人の考えが大きく違い、さらに意見がぶれずに一貫して物語を作っている姿を見て、個人個人で物語を作っていくことに変更。

物語を作るうえで、感情移入しているほうが創造しやすいと考え、衣装を着用してみたり、物語の一場面を演じてみたりした。

どの作品も全く予想していなかった展開になり、とても面白かった。同時に生徒の意思表出が豊かに見て取れ、物語からそれぞれの《らしさ》が感じられる素敵な作品になった。



授業・実践を通じた児童生徒の変容

物語を作る、という作業の中で、返答を期待した問いかけを繰り返すことにより、個々の性格や思いなどを意外な角度から発見することができたように思う。生徒の意外と頑固な一面や、笑顔になるポイントなど、普段の生活からは知ることができなかった内側の部分を見ることができた。生徒自身は、物語作りを通じて想像する楽しさを感じてくれていたら嬉しいが、目に見えて変化したことはない。しかし、ばたばたする日常の中で、少しゆっくと、日常からはかけ離れた物語を想像しながら生徒の考えを聞くことは、新鮮で、かつ多くの発見があった豊かな時間だった。TT の先生方のご協力に感謝です。